

## 都市環境・緑化グループ

### 2012年度グループ研究「並木」研究のねらい

- 春先の芽ぶき、新緑、夏の日陰、秋の紅葉など、折々に街路樹は季節感を感じさせてくれる。秋から冬にかけての落ち葉の散乱も街路樹に思いを起す事例でもある。
- 街の景観を形成する街路樹であるが、より広く並木ととらえ色々な方向から研究するのも都市環境・緑化Gのテーマとしてふさわしいものと思う。街路樹を通して自分の住むまちの環境や景観を見つめなおす契機としたい。

1

## ～ 期末の到達点 ～

- G全員が、「自分の住むまちの“自慢できる街路樹”と“残したくない街路樹”各々1カ所を選定、人に案内できるようになる(それに関する物語があればさらに良し)」事を目指す。
- さらに意欲のあるメンバーは、問題点を抽出し市民レベルで解決策を模索する。
- 街路樹を介して“まちの環境”や“景観”を見直すキッカケとなるように心掛ける。

2

## 私のまちの街路樹

- < 発表順 >
- 西宮市:メタセコイア、ハナミズキ 飯 盛
- 港 区:ソメイヨシノ、サトザクラ 北 仲
- 大阪市:イチヨウ 一ノ瀬
- 堺 市:フェニックス、ケヤキ 鹿 喰
- 吹田市:モミジバフウ、ニワトコ 沖 本
- 芦屋市:マツ、サクラ 石 井
- 宝塚市:ソメイヨシノ 加 藤
- 京都市:ケヤキ、イチヨウ 世 古

3

## “並木”の歴史

- 紀元前10世紀 世界最古: グランド・トランク道  
インドのカルカッタ～ベシャワール=2100km
- 紀元前6世紀前半 メソポタミア  
丘陵の上の宮殿前に規則正しいマツ、サイプレス
- 紀元前5世紀 ギリシャ時代  
スパルタのドロモスにスズカケノキの並木
- ローマ時代 神殿前のフォーラムやスタジアム前の  
散歩道にスズカケノキが、ローマに通じる主要  
街道にサイプレス

4

## “並木”の歴史<中国>

- 紀元前5世紀: 周の時代 = モモ、スモモ
- 秦の時代: 始皇帝がマツを植えさせる
- 唐の時代(7世紀): 長安の都にヤナギ、モモ  
エンジュ、ニレ
- 清の時代: ニセアカシア、スズカケノキ、  
ポプラ等外来種も
- ニレ(ハルニレ): 日本、朝鮮半島、中国東北部
- エンジュ: 中国 ハリエンジュ: 北アメリカ
- ポプラ: ヨーロッパ

5

## “並木”の歴史<西洋>

- 16世紀から本格的に…
- フランス: ヘンリー2世植栽を命じる(1552)
- ドイツも同じころ幹線道路にポプラ類を
- イギリス: 公共の道にスズカケノキ(1650)
- < 産業革命以降、都市の環境悪化 >
- イギリス: 「公有地及び歩道保全協会」設立
- フランス: ナポレオン1世 並木植栽法(1790)

6

## “並木”の歴史 < 西洋 >

- 19世紀半ば以降・・・
- 中世都市の城壁が撤去されたり、濠が埋められた跡地に環状や直線的に列植された並木道  
= ブールバール (英語Boulevard)
- パリのシャンゼリゼー(1858)
- ウィーンのリンク・シュトラッセ(1857)
- アメリカの首都ワシントンやセントラルパーク
- 20世紀～自動車の時代 安全、景観維持

7

## “並木”の歴史 < 日本 >

- 神功皇后(4世紀末):九州・筑紫にクスノキ
- 雄略天皇(5世紀):タチバナ
- 敏達天皇(6世紀):難波の宮にクワ
- 聖武天皇(8世紀半ば)平城京にヤナギ、タチバナ
- 光明皇后は都大路にモモトナシ
- 遣唐使として派遣された東大寺の僧:普昭が唐に習い
- 街路樹整備を提案 756年:太政官符で近畿7道の両側に
- 果樹を植える(カキ、タチバナ、ナシ等諸説あり)
- 8世紀後半桓武天皇の平安京にヤナギとエンジュが、
- 地方には果樹の並木が植栽

8

## “並木”の歴史 < 日本 >

- 鎌倉時代にはサクラ、ウメ、スギ、ヤナギ等
- 戦国時代には織田信長が道奉行を任命して、街道の安全を
- 確保するため東海道、東山道にマツ、ヤナギを植えさす
- 上杉謙信や加藤清正なども街路樹を植えさせている
- 江戸時代に入ると・・・
- 各地に街道が整備され、マツ、スギ、ケヤキ等植栽され、
- 距離の目安として、また休息所として一里塚が造られる
- 近代:1867年横浜の馬車道にヤナギとクロマツを列植
- =「近代街路樹発祥の碑」
- レンガ建築で近代化された銀座通りにクロマツ、サクラ、
- カエデが植えられる(1873年) = 計画的な最初の街路樹

9

## 街路樹の効果

- 景観向上:良好な景観形成、街・通りのシンボル
- 生活環境保全:騒音の低減、大気の浄化、緑陰形成
- 暑さを防ぐ、強風を防ぐ、降雪や防塵予防
- ヒートアイランド現象の緩和
- 防災効果:吹雪や飛砂をふさぐ、火事の延焼防止
- 交通安全:眩しさを遮る
- 経済効果:植栽・剪定等の請負業者、
- シルバー人材活用

10

## 街路樹の問題点

- 法的には道路の付属物
- 行政の管理
- 道路管理の主体が分かれている
- 設計－施工－樹木選定に一貫性がない
- 樹木選定に住民の意見反映せず
- 財政の逼迫
- 強剪定(予算・クレーム)
- 植栽後4～50年以上の対応

11

## “並木”のこれから・・・

並木は都市の景観を形成し、人々に安らぎや潤いを与えている。

住民参加で樹種を決定し、管理も市民参加で、美しい街路樹が維持される。

12